

S-09

看護師として南海トラフ大災害にどう 取り組むか

さいたま赤十字病院

○池田 ^{いけだ} ^{としこ} 稔子

私は比較的災害の少ない埼玉県に住んでおり、自分自身が大きな被災をしたことはありません。しかし、我が県の災害拠点病院の人口10万人対の割合は全国ワースト1位で、一旦災害の渦中となれば医療資源は非常に脆弱であると言えます。正直、危機感を持ちながらもなかなか具体的に状況を変える行動を取ることもなく今回の東日本大震災を迎えてしまいました。そのような私がこのテーマについてどのような内容を皆様に提示できるか非常に戸惑いました。そこで私からは情報提供と課題の提示をさせて頂くことにしました。今回の大震災において医療施設等で活動された看護師の行動、そこから見えてきた課題についてお話させていただきます。そこでは平時の病院では考えられない真実や様々な困難さを乗り越えるための工夫がなされ、刻々と変化する局面に「ベスト・ベター」な決断をしています。病院では看護職員が最大多数を占めています。被災された方、支援に関わった方が病院機能の維持や患者対応のためどのような決断と活動をされたのか振り返りながら、各施設で今後何をどう備える必要があるか共に考える機会になれば幸いです。